

第1部 地域を見る目		
1回	4月13日	①スタッフ紹介とオリエンテーション :①・②は鈴木慎一郎(教育・チーフコーディネーター) ②テキスト『地域学入門』の紹介 ③講義「地域学とは何か」:藤井正(地域学部長)
2回	4月20日	安藤由和(地域環境・教授) 環境物理学から地域学へ
3回	4月27日	仲野 誠(地域政策・教授) 地域のつながり

## 【第1回レポート(5月 日講義終了時提出・20点)】課題:地域を見る目

1~3回の講義のポイントを要約するとともに、テキスト『地域学入門』の序章~第4章を読んで自分なりに「地域学」について考えてまとめる。家族や友人に「地域学部って何?」と尋ねられた時に少しでも説明できるようになりましょう。

・体裁:A4版横書1枚、40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載。本文は40行以内とします。

第2部 大学の研究から地域連携へ(教員・学生の活動紹介)			
4回	5月11日	土井康作(地域教育・教授) ◆レポート提出日	ものづくり道場の実験と因幡の手づくりまつり
5回	5月18日	ケイツ・A・キッペン(地域文化・教授)	地域における国際交流活動
6回	5月25日	寶來佐和子(地域環境・准教授)	微量元素の汚染実態から見る地域環境と地球環境
7回	5月30日	野田邦弘(地域文化・教授)	学生の力が地域を変える~歴史的建築物や空き店舗を活用したプロジェクト
8回	6月8日	新倉健(芸術文化センター・教授)	

## 【第2回レポート(6月 日講義終了時提出・40点)】課題:大学が取り組む地域研究や地域連携活動の意義と可能性

・4~9回の講義において紹介された取組のポイントを簡潔に整理したうえで、教員・学生が実践する地域研究や地域連携活動が地域社会に与えた意義を考察するとともに、大学が地域研究や連携に力を入れることでどのような可能性が拓けるかを論じなさい。

・テキスト『地域学入門』の他に、必ず1冊以上文献を読んで、レポートに活かすこと(レポートの末尾に必ず参考文献・URLを記載のこと)  
・体裁:A4版横書1枚の両面印刷、40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載。

第3部 実践の知に学ぶ			
9回	6月15日	岡部太郎(財団法人たんぼぼの家)+五島(芸文センター)	ソーシャルデザインとエイブルアート
10回	6月22日	山内道雄(海士町長)+竹川(政策) ◆第2回レポート提出日	地域の生き残り戦略
11回	6月29日	(日南町企画課主事)+永松(環境)	
12回	7月6日	土井淑平(元共同通信記者)+岡村(文化)	脱原発運動とSEALDS
13回	7月13日	佐々木享(釜石市危機管理監・防災危機管理課長)+塩沢(政策)	釜石市における震災復興の取り組み
14回	7月20日	水嶋志都子(南部町教育委員会学校教育室長)+武田(教育)	コミュニティスクールの挑戦

## 【第3回レポート(7月 日講義終了時提出・40点)】課題:地域研究と「地域づくり」・「人づくり」

・地域学部では地域の研究を基礎に「地域づくり」や「地域における人づくり」に取り組む志と能力のある人材を養成します。10~14回の講義内容を簡潔に整理したうえで最も印象に残った実践をひとつ挙げ、将来どのような「地域づくり(人づくり)」に取り組んでみたいか、または在学中にどのような地域研究を学習・研究してみたいかを述べなさい。

・テキスト第3部(第9~12章)の他に1冊以上文献を読んでレポートに活かすこと(末尾に参考図書に記載すること)。

・体裁:A4版横書1枚の両面印刷、40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載。おおよその配分量は、表が講義の整理、裏は印象に残った実践と自分が取り組みたい実践・研究に関する論述+参考文献やURL。

第4部 全体の振り返り・まとめ		
15回	7月27日	総合討論(学科世話人VS受講生)+まとめ ◆第3回レポート提出日

◎コーディネーター/チーフ:鈴木(教育)、サブ:竹川(政策)

◎学科担当教員/ (政策)、谷中(教育)、アレキサンダー・ギンナン(文化)、 (環境)、 (芸文)

◎TA/田中恭平(地域教育)・ ( )

◎1講義(90分)の配分=冒頭15分:予習事項の発表+60分:講師の講義+15分:質疑応答&感想文記入

◎冒頭15分には各学科より指定された学生が宿題を発表する。また終了時出席票を兼ねた感想文を毎回提出する。4回以上欠席の場合には未履修扱いとします。遅刻・欠席のないように!